

## TOPICS

- ① 鉄鋼関連情報（社団法人鉄鋼連盟）
- ② 物流の2024年問題

### 1

#### 鉄鋼関連情報(社団法人鉄鋼連盟)

下記 URL より社団法人鉄鋼連盟が発表した『鉄鋼需給の動き 2024 年 2 月』の資料を閲覧することができます。

<https://www.jisf.or.jp/data/jyukyu/documents/jyukyu202402.pdf>

## ■2024年問題とは

2019年4月に施行された「働き方改革関連法」が、物流、建設、医療業界については**5年間の猶予措置**がとられていた結果、2024年3月末に期限を迎える問題のことです。

医師 上限のなかった年上限時間外労働時間が1860時間となる

建設業 年上限時間外労働時間が720時間となる

運送業 年上限時間外労働時間が960時間となる

また罰則もあります。

2024年4月以降、物流、建設、医療業界に対して、それぞれ時間外労働時間の上限規制が適用されます。この上限規制に違反した場合、「6ヶ月以下の懲役もしくは30万円以下の罰金」という罰則が科せられる可能性があります。

物流の2024年問題

詳しくは下記 URL 国土交通省、「物流の2024年問題について」を参照してください。

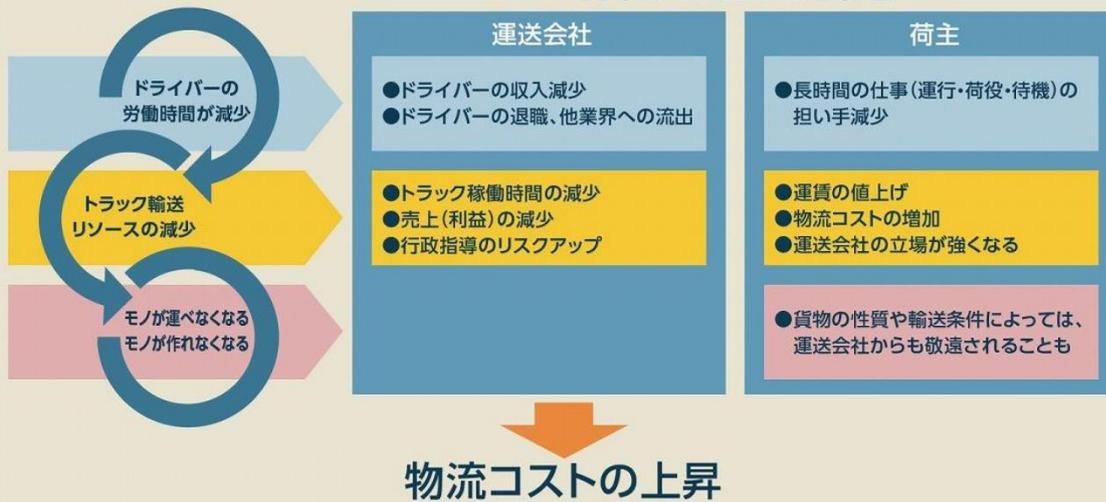
<https://www.mlit.go.jp/policy/shingikai/content/001620626.pdf>

### <主な改正内容>

	現 行	令和6年4月～
時間外労働の上限 (労働基準法)	なし	年960時間
拘束時間 (労働時間+休憩時間) (改善基準告示)	【1日あたり】 原則 <b>13時間</b> 以内、最大 <b>16時間</b> 以内 ※15時間超は1週間2回以内  【1ヶ月あたり】 原則、 <b>293時間</b> 以内。ただし、労使協定により、 <b>年3,516時間</b> を超えない範囲内で、 <b>320時間</b> まで延長可。	【1日あたり】 ・原則 <b>13時間</b> 以内、最大 <b>15時間</b> 以内。 ・宿泊を伴う長距離運行は週2回まで16時間 ※14時間超は1週間2回以内  【1ヶ月あたり】 原則、 <b>284時間</b> 、 <b>年3,300時間</b> 以内。ただし、労使協定により、 <b>年3,400時間</b> を超えない範囲内で、 <b>310時間</b> まで延長可。

# 物流の2024年問題がもたらすビジネスへの悪影響

付帯して発生する悪影響

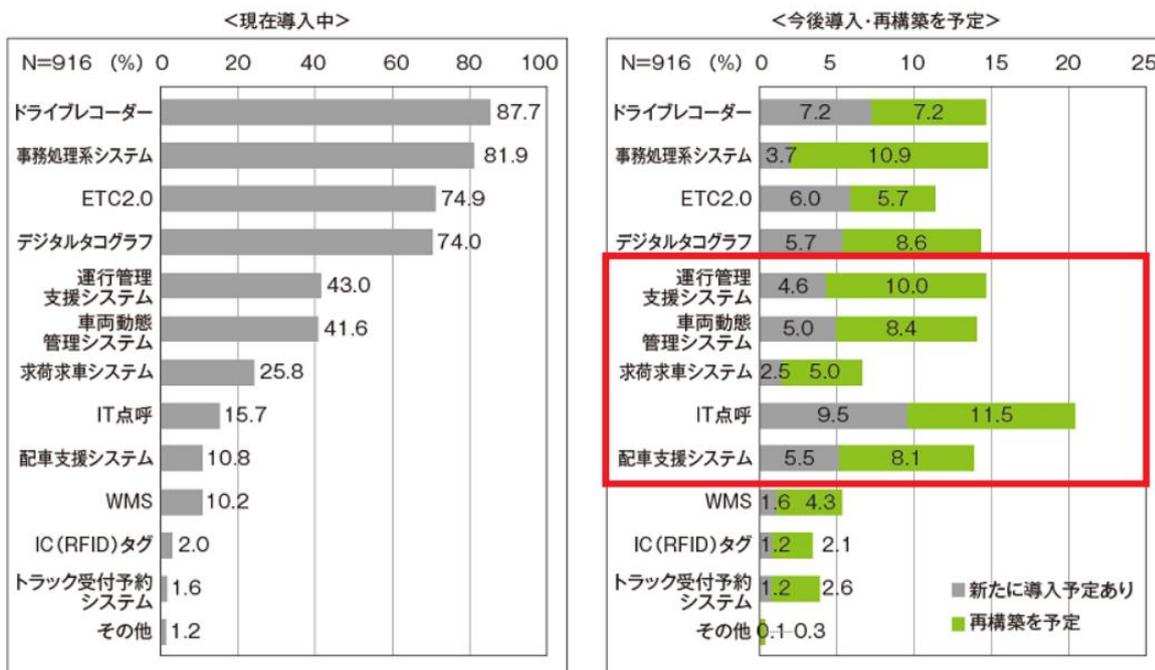


## ■ 運送業での IT ツールの必要性と活用状況

自社内の課題は、業務プロセスを見直すことで、効率化を図ることができる課題もあります。

業務の生産性を高めるためには、これまで時間をかけて人が実施していた作業をシステム化できる、IT ツールの活用が必要不可欠です。

IT 機器・ソフトウェアの導入について(複数回答)



資料：国土交通省「トラック運送業における IT 機器、ソフトウェア等の活用による生産性向上に関するアンケート」(2019年3月)、P7以降のアンケート結果も同様。

出典：国土交通省「中小企業向け IT ツールガイドブック」

[https://www.mlit.go.jp/jidosha/jidosha\\_tk4\\_000099.html](https://www.mlit.go.jp/jidosha/jidosha_tk4_000099.html)

国土交通省のアンケートによると、ドライブレコーダーやデジタコ、ETC2.0 は7割以上の事業者が導入しています。

デジタコは、車両総重量が7トン以上または最大積載量が4トン以上の事業用トラックのすべての車両に装着が義務化されているため、導入率は74%と非常に高い状況です。

一方で、業務の効率化の役割が強い運行管理、動態管理、配車支援、IT 点呼等のシステムについては、まだまだ導入が進んでいないことが分かります。

また、今後の導入検討状況を見ても、新規で導入を予定している事業者は10%以下と低い状況です。

## ■ 課題&IT ツールと弊社の対応

＜課題＞ 配車計画を任せられる人材がない、配車計画の作成に時間がかかっている

＜解決ツール＞ **自動配車システム**

＜弊社の対応＞ 出荷情報と AI 自動配車システムを連携して運用

＜課題＞ 顧客からの配達状況の確認、ドライバーに電話で確認に時間がかかっている

＜解決ツール＞ **動態管理システム**

＜弊社の対応＞ 全車両に GPS 搭載し動態管理システムを運用

＜課題＞ 運賃計算やドライバーの書類作成業務に多くの時間がかかっている

＜解決ツール＞ **車両運行管理システム**

＜弊社の対応＞ 運転日報システムと届け先情報に連動した売上システムを連携し自動運用

＜課題＞ 点呼のために長時間勤務や移動が発生している

＜解決ツール＞ **IT点呼**

＜弊社の対応＞ 自社開発の点呼システムと運転日報システムを連携して運用

運送業での IT ツールの活用は、ホワイト物流推進運動として国土交通省が推進しており、IT ツール活用ガイドなども展開していますのでご覧になってみてはいかがでしょうか。

ホワイト物流推進運動： <https://white-logistics-movement.jp/guide/#id-page05>

■ 弊社は安定的に製品を届けるための輸送部門の拡張を行っております。

### 自社便への拘り

根津鋼材に自社運送部門があるのは、鋼を運ぶプロ・鋼を熟知したドライバーが製品を安全にお客様のもとに届ける事へ拘っています。大小合せ38台の自社保有トラックが、お客様の元に製品を輸送しています。30トン大型トレーラーから、3トントラックまで製品ニーズに合わせた輸送を可能としています。(2022年3月NEZU GROUP含む)



### ■ 受付システム

顔認証デバイスで受付時に前回登録情報（連絡先電話番号、車両番号、最大積載量等）は自動セットされ、登録操作を減らしています。受付後、入庫待ちになった場合でも順番が来ると自動的に運転手様に音声、SMSでお知らせします。



### ■ 引取システム

積込ヤードの見える化（映像、待ち状態）

待ち時間をより少なく、スムーズな引取、積込み作業ができる様に支援します。



## ■商品、品質、サービスを提供していきます

これからも受注から加工、積込、配達までトータルで最適化を進めてまいります。

運送部門もIT技術やAI技術を活用して2024年問題に対応してまいります。

ご安全に！

## 編集後記

システムソリューション事業部 濱です。今更ですが、カミさんから「Chat GPTって何？」と質問が・・・未だに気になっていた様で「Chat GPTに質問すると、世界中の情報をAIがいい感じに纏めて、文章作成や料理のレシピ、ソフト構文とか素早く回答してくれるシステムの事だよ」と伝えたところ、カミさん曰く「"ちゃちゃっと(Chat) じじいが(G) パソコン(P)で といあわせする(T)"って事ね！」と一人で納得していました。なんか違うぞと思いつつ、よくよく考えたら間違っていないかも・・・と思ったりします。Chat GPTを使ってみて回答の素早さや内容も凄いのですが、自身の得意分野や知っている情報をあえて問い合わせてみると、回答が微妙に間違っていたり情報が古かったりしますので今は鵜呑みにするのには注意が必要ですね！

発行：根津鋼材株式会社 住所：〒116-0014 東京都荒川区東日暮里1-32-5(TEL)03-3805-5555

メール：[hp-master@nezu-g.co.jp](mailto:hp-master@nezu-g.co.jp) ホームページ：<http://www.nezu-g.co.jp/>

発行人：根津訓光／監修 樋口良成／編集長

編集：システムソリューション事業部 ※NEZUシステム通信に掲載された記事の転載はご遠慮願います。

このメールマガジンは、配信依頼がありましたお客様に発行しております。

配信中止の場合は、お手数ですが[hp-master@nezu-g.co.jp](mailto:hp-master@nezu-g.co.jp)までご連絡ください。その際には、御社名、御社（配信先）メールアドレス、担当者様名を明記くださいます様よろしくお願い致します。